

業務実績報告書

提出日 令和2年1月22日

1. 職名・氏名 教授・山崎茂雄

2. 学位 学位 博士、専門分野 学術、授与機関 京都大学、授与年月 H16.11

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	文化経済学 (2単位 毎年開講) 2年生、学部 2016年度—2019年度
② 内容・ねらい	現代文化経済学、文化観光論の成り立ちと発展、研究の到達点を概説する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	講義は市販の標準テキストを用いるが、オリジナルな資料や動画を用いて理解を深めさせる。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	2016年度—2019年度 外国書講読Ⅱ (2単位) 3年生
② 内容・ねらい	外国語 (英語) を通して公共政策学や文化経済学、観光学の応用を学ぶことを目的とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	毎回、英検準一級レベルの英単語・熟語の小テスト、専門書の輪読および IELTS などの留学検定試験を教材に用いて、実用的な外国語学習を内容とする。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	2016年度—2019年度 公共管理論 (2単位) 大学院、博士前期課程1、2年
② 内容・ねらい	ニュー・パブリック・マネジメント、公共政策学に関する理解を深める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	戦後の英米で発展したニュー・パブリック・マネジメントや政策研究の現代的動向と展望について、欧米の最新事例を積極的に取り上げて受講生の関心を高める工夫を行う。 大学院生のフィールドワークとして、2019年6月に京都市において実施。企業メセナの現場、伝統産業の匠の技を今に生かすノウハウを現場で学ぶ工夫を行ったものである。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	関連する文献や資料の紹介・配布を行う。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	博士後期課程 2016年度—2019年度 財政・文化経済学特講 (4単位)
② 内容・ねらい	高度な専門的知見を身につけるとともに、博士論文作成指導。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	研究者、実務家などのオブザーバーを時に招いて、最新の動向と課題を探る工夫を行っている。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	2016年度—2019年度 外国語Ⅱ (2単位) 3年生
② 内容・ねらい	外国語 (英語) を通して公共政策・文化経済学・観光学の応用を学ぶことを目的とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	関連する文献や資料の紹介・配布を行う。授業は基本的に英語で行う。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	2年生 演習Ⅰ (4単位)、2015年度—2018年度

② 内容・ねらい 基礎的学術文献の輪読や討論、集団による調査と報告により文化経済学・観光学の基礎を身につける。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 演習参加者の具体的なテーマ・関心に即しながら、スムーズに学問への関心を高める。 現場の実情を把握するために、国内・海外の文化公共施設や文化産業のフィールドワークを実施している。2019年度では、福井県立大学ゼミ等海外活動支援補助金を受け、インドネシアにおける国際観光地に展開する文化産業をリサーチするフィールドワークを行った。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 演習Ⅱ 4単位 4年生 (2016年度—2019年度)
② 内容・ねらい 文化経済学・観光学の応用について深い理解と知識を身につける。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 研究発表、討論の技法を身につけるため、映像機器を積極的に使い、発表の機会を設けた。 ディベートの機会を設けた(主題:観光政策としての民泊の功罪)(2017年5月)。 (主題:外国人移住者の拡大について)(2017年11月) 県内伝統産業への理解を深めるため、県内越前焼工房フィールド調査(越前町)を実施した(2019年度11月)。 倉庫のアートによる再生を考えるため、卒業研究の一環として東京都天王洲アイルへの視察を行った(2016年度12月)
④ 熊川宿など県内の日本遺産に指定された観光地をフィールドワークして学ぶ(2019年11月)。
⑤ 地区まちづくり協議会でまちづくりを实践されている住民たちとゼミ学生とのディスカッション、現場視察(2017年12月、福井市国見公民館)。
① 大学院博士課程論文審査を主査として実施(2016年度)
② 大学院公共管理論講義の学外における教育活動の一環として、神戸市等において受講生らとフィールド調査実施(2018年度)。
(2)非常勤講師担当科目
(3)その他の教育活動 学部演習生 県内・県外企業施設訪問(2019年度) バスツアー

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 「先住民ツーリズムとはなにか」『福井県立大学経済経営研究』41号、2019年10月
② 書籍 山崎編著『図説・越前和紙の里』(晃洋書房)2019年3月
③ 書籍 山崎編著『町屋・古民家再生の経済学』(水曜社、2016年3月刊) 執筆分担箇所 序章 pp.5—9 第1章 pp.11—27 第2章 pp.29—46 第6章 pp.119—122 第7章 pp.123—135 終章 pp.137—141 おわりに p142
④ 論文「文化資本と地域連携—イタリアのエコミュージエを中心」『エコミュージアム研究』第22号、日本エコミュージアム研究会、2018年1月受理、2018年3月予

⑤ 論文 「文化観光論序説」『経済・経営学研究』第 36 号、2017 年 3 月
⑥ 書評 十名直樹著「現代産業論」(水曜社、2017 年)『経済経営学研究』第 38 号、福井県立大学、2018 年 3 月
⑦ 論文 「古民家再生研究—ワークインレジデンスの理念と手法」(一般社団法人北陸地域づくり協会編『「北陸地域の活性化」に関する研究事業論文集』(第 18 回、平成 25 年度) 2014 年 3 月
⑧ 論文 「ワークインレジデンスの社会実験」(一般社団法人北陸地域づくり協会編『「北陸地域の活性化」に関する研究事業論文集』(第 19 回、平成 26 年度) 2015 年 3 月
⑨ 研究ノート「古民家再生についての一考察—兵庫県篠山市のケース」福井県立大学経済経営研究 28 号 (2012 年度)
⑩ 研究ノート「職人・芸術家の農村への移住と地域再生—大分県竹田市を事例に」福井県立大学経済・経営研究第 30 号 (2013 年度)
⑪ 書評「大都市型産業集積と生産ネットワーク」福井県立大学経済経営研究 28 号 (2013 年 3 月)
⑫ 書評「ジリアン・ネイラー著『アーツアンドクラフト運動』みすず書房刊、福井県立大学経済経営研究 31 号 (2014 年 10 月)
⑬ 書評「十名直喜『ひと・まちづくり・ものづくりの経済学』法律文化社刊『地域公共政策研究』22 号 (2014 年 6 月)
v 学会報告等 ① 文化経済学会松山大会における報告「古民家再生における考察」(2014 年 7 月 5 日、松山大学) ② 日本エコミュージアム研究会報告「文化資本と地域再生—イタリアにおけるエコミュージアム」(2016 年 8 月、広島大学東京キャンパス) ③ 余暇・ツーリズム学会関東支部「包摂型余暇ツーリズムについて—イギリスの事例を中心に—、東洋大学、2017 年 6 月、東洋大学 ④ 余暇ツーリズム学会全国大会「観光産業の発展と共通価値 (CSV) の創造」東洋大学、2017 年 10 月
(2)学会活動等 学会でのコメンテーター、司会活動 北陸観光研究ネットワーク福井大会、司会コーディネーター、2019 年度 学会での役職など 地域公共政策学会常任理事 (2012—2017 年度) 日本エコミュージアム研究会監査役 (2016 年度—2017 年度) 日本公共政策学会学会誌『公共政策研究』論文査読委員 (2014 年度) 学会・分科会の開催運営 北陸観光研究ネットワーク福井大会運営、2019 年度、会場アオッサ ISFJ 日本政策学生会議政策フォーラム論文審査委員 (2015 年 11 月)
(3)研究会活動等 ① 特定研究「観光研究会」報告「福井の観光行動」、2017 年 12 月、福井県立大学 ② 特定研究「観光とまちづくり」シンポコーディネーター・企画、2018 年 3 月 4 日予、越廼公民館大ホール ③ 経済学部「経済研究会」報告「古民家における社会実験」、2016 年、福井県立大学 ④ ファンドレイジング研究会報告「ファンドレイジングの国際的動向」2014 年 3 月 3 日、文化資源マネジメント研究所会議室 ⑤ 2014 年度地域研究コンソーシアム年次集会「地域研究についての最近の動向」報告、2014

<p>年 11 月 1 日、ジェットロ・アジア経済研究所</p> <p>⑥平成 25 年度地域づくり協会主催「北陸地域の活性化」に関する助成研究発表（2014 年 3 月、新潟市）</p> <p>⑦平成 26 年度地域づくり協会主催「北陸地域の活性化」に関する助成研究発表（2015 年 3 月、新潟市）</p> <p>⑧エコミュージアム研究会・日本・ベルギーのエコミュゼの 25 年セッションディスカッション参加（ブリュッセル自由大学、2015 年 8 月 27 日）</p> <p>⑨日本学術振興会・課題設定による先導的人文・社会科学的研究推進事業成果報告会報告（2015 年 8 月 9 日、箱根）</p>
①その他の研究活動参加 ロシア・サンクトペテルブルグ大学講演「文化資本と地域再生」（2016 年 9 月）
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
<p>2019 年度 戦略的課題研究支援推進事業研究費、研究代表者</p> <p>2018 年度 戦略的課題研究支援推進事業研究費、研究代表者</p> <p>2017 年度 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤 C 研究代表者</p> <p>2016 年度 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤 C 研究代表者</p>

## 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
<p>①国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井県協働教育部会委員、2019 年度 福井市新文化会館基本計画・策定検討委員会委員長（2016 年度、2017 年度） あわら市行政不服審査会委員（2016 年度、2017 年度、2018 年度、2019 年度） 福井大学・ふくい文化創造会議委員（2015 年度、2016 年度、2017 年度）</p>
②地方公共団体等の調査受託等
<p>③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加 特定非営利法人・地域公共政策支援センター理事長（2017 年度、2018 年度、2019 年度） 一般社団法人・芸術資源マネジメント研究所運営委員（2014 年度、2015 年度、2016 年度）</p>
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
<p>⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 山崎ゼミとして永平寺本山、永平寺町教育委員会等の協力、地域公共政策支援センターとの共催で永平寺柏樹庵において「和食に関する社会実験の実施」（2015 年 2 月 21、22 日）</p>
<p>⑥その他 大学地域連携本部、福井市西地区まちづくり協議会、山崎茂雄研究室共同での空き家問題に関する共同プロジェクトの推進（共同研究・記念講演・シンポジウム開催）2017 年度 福井大学アートマネジメント人材育成講座「アートマスター」講師 2014 年 6 月 30 日 福井大学にて） 若狭広域経済懇話会新春講演会講師「町屋・古民家再生の経済学」（2017 年 2 月 10 日）</p>
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
<p>①公開講座・オープンカレッジの開講 2016 年度 都市と芸術（2016 年 5 月、アオッサ） 2015 年度 市民法務論（2015 年 8 月 7 日、7 月 31 日小浜 C） 2014 年度 大学連携リーグ「古民家活用・空き家再生事業を考える」講座・コーディネーターおよび講義担当 2014 年 7 月 2 日 アオッサ 新町客員教授の「観光研究に関する公開講義」を実施（2014 年度、2015 年度）</p>
<p>②社会人・高校生向けの講座 県立美方高校開放講義（2017 年 7 月 2 日）</p>

福井県立大学・藤島高校開放講義（2018年度）
③その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）
国際交流基金関西センター外国人研究者学術交流メンバー

#### 6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
紀要『福井県立大学経済・経営研究』編集委員長（2017年度、2018年、2019年度） 教員評価委員会委員（2017年、2018年、2019年度） 教員昇任委員会委員（2016年、2017年） キャリセンター運営企画推進委員（2016年度） 教職課程企画推進委員（2015年度、2016年度）
(3)学内行事への参加
創立20周年記念祝賀会等に係る醸金協力
(4)その他、自発的活動など
本学キャリアセンターに対して公務員試験受験志望者向けセミナーの企画・講師招聘協力 （2015年2月9日実施）